（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達さぽーとセンターるぽろ（　放課後等デイサービス　）			
○保護者評価実施期間	令和　７年　９月　１６日		～	令和　７年　１０月　３１日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	64	（回答者数）	43
○従業者評価実施期間	令和　７年　１０月　１日		～	令和　７年　１０月　７日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和　８年　１月　１６日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個々の支援会議を定期的に実施しています。多職種が連携して行うことで、様々な視点からアセスメントをし、個々に合わせた療育を行っている。	・日々の療育前後には職員間でミーティングを行い、子どもの情報を共有しています。支援者の見立てだけではなく、活動の中で子どもとの個別の時間や子ども同士の話し合いの時間を設けることで、子どもの思いを引き出し、思いを尊重して活動に取り入れています。 ・子どもの「やりたい」「好き」を基本に、出来る方法を子どもと一緒に考えて取り組むことで、達成感に繋がるようにしています。	・意思疎通のためのツール等を増やし、より子どもの思いを引き出して、意思決定が出来るようにしていきたい。
2	・療育終了後には保護者の方に迎えに来ていただき、活動時の子どもの様子に加えて、子どもそれぞれの目標に合わせた内容を連絡帳や口頭でフィードバックしています。	・支援計画更新時には計画内容を貼り付け、いつでも確認できるようにしています。いつでも確認できるようにし、ねらいに合わせた活動実施やねらいに合わせた様子を連絡帳でお伝えできるようにしています。 ・月に一度「るぽろ便り」作成してメールで配信し、活動時の様子を写真でもお知らせしています。	・活動時の様子をより手軽に見ていただけるように、アプリの導入等を検討していきます。
3	・児童発達支援、こども園と併設されているため、幅広い異年齢児との関わりがある。	・長期休暇などには、放課後等デイサービスの利用児が行う夏祭りなどに児童発達支援の利用児を招待したり、園庭でこども園の子どもと関わりながら遊びを展開する機会を設けています。異年齢での関わりを通して、自信をつけたり、関わり方が分かるように支援しています。	・相手や場面に合わせた社会的ルールなどがより分かるように活動前にSSTを行うなどして、安全に楽しく関わることが出来るようにしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・送迎サービスの対象・範囲が限定されている。	・現在、太子町内の小学校への迎えを基本としている。保護者や相談支援事業所からは、他市や支援学校など多様な送迎のニーズが上がっているが、実施できていない状況。送迎時に必要となる職員の確保が出来ておらず、安全面を考慮すると範囲を広げることにはリスクがある。	・送迎時に必要となる人員の確保を進めていく必要がある。また、送迎時のマニュアルを再確認し、リスクマネジメントを行ったり、様々な方面から安全に実施できる方法を情報収集し、ニーズに応えていけるようにすることが必要。
2	・グループや活動、子どもの特性に合わせた支援者の人数が十分でない。	・配置基準は満たしているが、幅広い活動を提供していくためには人員体制にゆとりがない状況である。採用活動を継続しているが、社会的な人手不足もあり採用に至ってない。	・個々に合わせてより丁寧な支援を行っていくために、ゆとりある人員確保が必要。支援者によって関わり方に差が生じることのないよう人員確保に努めるとともに、会議や検討会に全員が参加できるように情報共有の仕方を工夫していきたい。
3	・利用児の定員を満たしており、新規の希望を頂いたときや児童発達からサービス移行する際に、利用のご希望に添えないことがある。	・同施設で運営する児童発達支援からサービス移行する際も、公平性を大切にしているため、全員の希望に応じることが出来ない場合がある。また、子どもの成長や発達に応じて同法人が運営するもう一つの放課後等デイサービスなどへの移行や地域移行を促せていない状況。	・子どもの成長や発達に合わせてご本人と保護者の意向を確認しながら、別のサービス等も提案できるようにすることで、療育を必要とする時期に合わせて利用してもらえるように努めていきたい。